
佐々木希 in「天使の恋」
Nozomi Sasaki in Tenshi no Koi







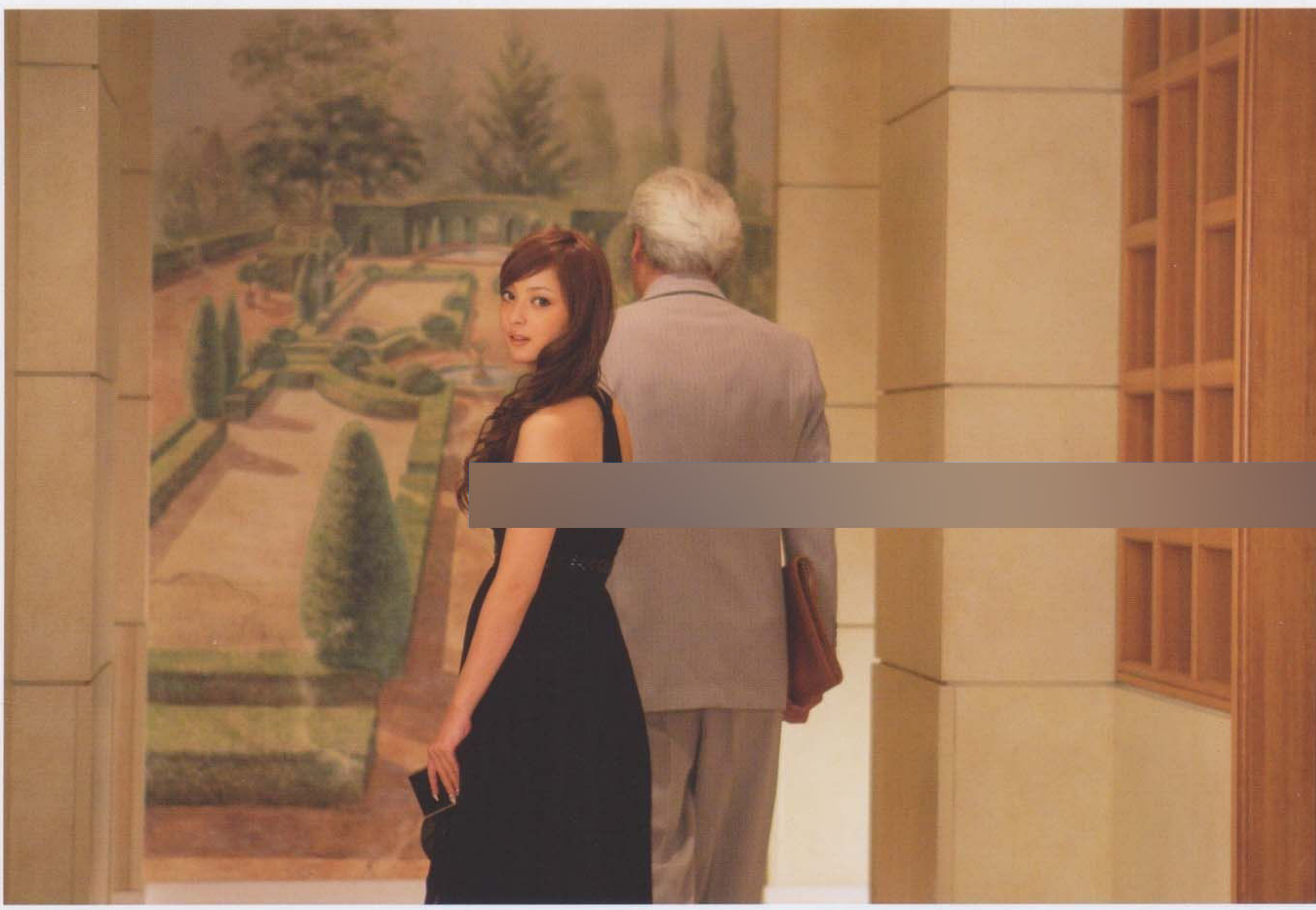



OJI PAPER




























Lotion


























FOOD






























































愛


CAMPO DE FIORI
CAMPO DE FIORI
VEGETABLE



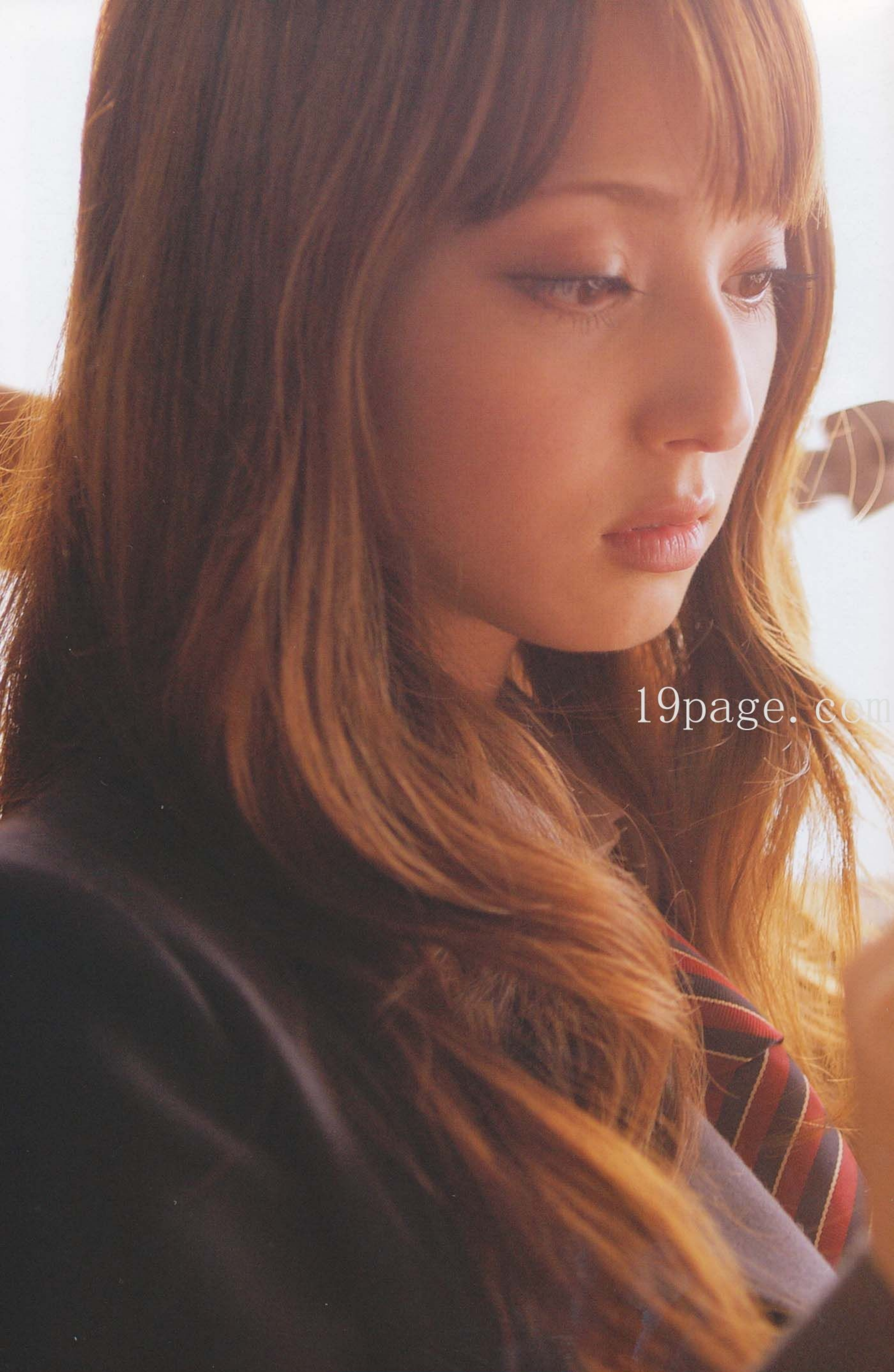























愛
















































Nozomi
Sasaki



映画初主演という大役を果たした 女優・佐々木 希の素顔に迫る

「キラキラした笑顔」という形容は、彼女のためにあるのかもしれない。
ひとたび登場すると、周りの空気がいっぺんに明るくカラフルなものに変わる。
その魅力をスクリーンでも見事に発揮した、女優・佐々木 希にいまの心境を聞いた。

ずっと、やりたくないって言っていたんです

——映画初主演、おめでとうございます。今回のお話は、寒竹ゆり監督が佐々木さんにほれ込んだことから実現されたそうですが、実際はどうだったんですか？

「事務所の方に1週間ぐらい『やろう!!』とずっと言われ続けて…。最終的には監督にもお会いして、やらせていただくことに決めました」

——じゃあ、その1週間はわりと迷っていたんですか？

「いいえ。『私はやりたくないです』ってずっと言ってました」

——え！　そうなんですか。それはなぜですか？

「それは…主演なんて無理だし、演技もそんなにやったことがなかったし…。レッスンも全然していなかったので、『まだやれないな…』と思ったんです」

——じゃあ、もともと、レッスンをしてからなら演技をしたいという気持ちはあったんですか？

「いや…それは…。流れ、で。」

——映画初出演作の「ハンサム★スーツ」のときも光っていたと思うんですけど…。

「『ハンサム★スーツ』のときが初演技だったんですよ。事務所の方に『とりあえず行って』って言われて、いきなりやった感じですね。全然わかってなかったです」

——その「やりたくない、まだ早い」っていう気持ちが変わったのはなぜなんですか？

「いや…もう…最終的に強制っぽかったんで（笑）」

——（笑）。

「強制というか、監督にお会いして、監督からも『是非』と言っていただいて。『演技ができなくてもいい』とまで言っていただいたので『じゃ、やります』って」

——決め手になった言葉ってありますか？

「そうですね…。私が怖かったのは、私ができないことでほかの俳優さんたちに迷惑をかけてしまうことだったんです。でも、監督とお会いしたあとに事務所の方たちとお茶をしていて、『できるまでやらせてくれるから大丈夫だよ』って言われて」

——それならやってみようと。佐々木さんって…真面目な方なんですね。

「いやいや（笑）」

撮影前にレッスンをしたのでその成果が出せました

——寒竹監督、27歳のかなり個性的な女性だと伺っているんですが。

「はい。そうです」

——どんな方でしたか？

「こだわるところはすごくこだわる方。絶対に妥協しない方ですね」

——監督と出会って影響を受けたところってありますか？

「すごくオシャレが好きな方で、着ている服がいつもオシャレだったので、そういうところとか…。オシャレをしなきゃっていう気持ちでしょうか（笑）」

——監督から受けた影響が「オシャレ」って、めずらしいですよね（笑）。

「あとは…なんだろうなあ、監督に会ってというか、この映画に会ってということならたくさんあります」

——それはなんですか？

「いろいろ学べたことです。この作品をやって、できなかった…というか、できないと思っていた演技が、ちょっとはできるかなっていう気持ちになれたことですね」

——演技、想像以上にお上手で。失礼かもしれませんが、正直、びっくりしました。

「そんなことないです…」

——観たら誰もが「すごい」と言うと思います。「モデルの方が映画に初主演しました」っていうのとは、ちょっと違う感じがしました。

「ありがとうございます」

——もともとお得意だったんですか？

「もともとって…。全然演技の経験ないです」

——この作品を通して、うまくなら

れたというか、ステップアップされたんですかね。
「『うまく』って自分ではわかんないですけど…。撮影に入る前に1か月半ぐらいレッスンしたので、たぶんそのおかげもあると思います」
——レッスンってどういうことをされたんですか？
「基礎からですね。発声練習とか…。もう1からスタートです」
——へえ〜…。それは…どうでした？　つらくなかったですか？
「つらかったです。知らないことばっかりだったので、慣れなくて…」
——監督と一緒だったんですか？
「そうです。監督、スタッフの方、共演者の方たち、さらには2度ほど(共演の)谷原(章介)さんも入ってくださって。本当に助かりました」
——谷原さんが入ってくれたりするものなんですか？
「いや、普通はないと思います。でも入ってくださったんです」
——撮影中、日々演技をしていて、演技に対する気持ちが変わってきた瞬間ってありますか？　自信が出てきたりとか…。
「瞬間というものはちょっとわかんないですけど、撮影に入る前にレッスンをしたおかげで、撮影のときは不安もなく、大丈夫かなっていう気持ちで臨んでいました。みっちりレッスンした成果が撮影に生かせたと思います」
——本番前の練習ですべてが決まる…。意外とスポーツマンタイプですね(笑)。
「私だけじゃなくてみなさんが協力してくれたので…。監督もすごく気合いが入っていたし。責任重大でした」
——そうですよねえ。
「私も責任重大ですけど、監督も責任重大ですよね。だから、監督に迷惑をかけないように頑張らなきゃという気持ちもありました」
——そういう、他の人の責任も感じながら…。
「はい…」

素直に感情を表現できる理央はかわいいですよね

——作品を拝見して、理央というキャラクターが本当にかわいいなと思いました。女の子から見てもそうだし、男の子から見てもこういう子って本当にかわいいんだろうなって思ったんですけど。
「はい」
——理央と佐々木さんで、共通する部分ってありますか？
「仕事では気を張っていても、心許せる人の前では素の自分を出したり…そういうところは理央と似ていますね」
——理央の素直な感じが近いということですか？
「私もそんなに駆け引きとかせずに、思いをすぐに伝えるタイプだから」
——そうなんですか！
「(照れながら)はい」
——劇中でストーカーっぽいこともしていましたけど(笑)。
「していましたね…。でも、さすがにあそこまではしないです(笑)。しないですけど、軽く追っかけたりとかはあるかもしれないですね」
——えーーー！
「あそこまでひどくないですけど(笑)」
——追っかけられるほうかと思っていました。
「いや、付き合ってからは追っかけますね」
——付き合ってから追っかける？
「付き合う前は、もう…自分からはあんまりいけないんで…」
——あ、そうなんですか。
「はい…」
——なにが違うんですか？
「付き合ってからは、全部見せたいので。付き合うまでは男性から来てっていう感じです」
——あんまり追いかけると男の人は引くって言うじゃないですか。それは…大丈夫なんですか？(笑)。
「そうですよね…(笑)」
——(笑)。印象的なシーンで、ホームの反対側から「わあっ」って手を振るシーンがあったんですが、ああいうのも普通にできちゃいます？
「あれはできないです(笑)。ああいうことをできちゃう理央はかわいいですよね」
——うんうん。でも、最初のほうでは、理央というキャラクターは、援助交際をしたりいじめの手を引いたり、わりと特異なキャラクターだったと思うんですが、そこはすんなり演じられたんですか？
「いろいろ考えましたね。自分の昔のこととか。10代ならではの悩みや、女の子同士のいざこざってあるじゃないですか。援助交際はあり得ないですけど。10代のころの気持ちを思い出しながらやっていました」
——理央はいい友達に囲まれていましたが、佐々木さんはどうでした？
「います。いまでもずっと親友です」
——(出身地の)秋田の友達ですか？
「はい。13歳のころからずっと一緒にいる子たちです」
——すごいですね！
「ず〜っと…。いまも変わらずです」
——そのなかで、佐々木さんはどういう立場なんですか？
「私はけっこう行動派なので、『あそこに行きたい！』とか言い出して、みんな『しょうがないな』ってつい





てきてくれる感じです(笑)」
——引っ張っていくタイプですか?
「引っ張っていくっていうか、たぶん私がわがままなんです(笑)」

高級レストランより断然、ラーメンです!

——劇中、ファッションもすごく楽しませてもらいました。カラフルで。
「そうなんです!」
——あれはもう、やっぱり本業ということもあって抵抗なく?
「全然抵抗はなかったし、逆にテンションが上がりました」
——確かにすっごい生き生きしていましたね。
「はい(笑)」
——劇中で一番好きな服はどれですか?
「そうですね〜、ベアトップにふりふりのスカートの服がすごくかわいいなって思いました」
——図書館で日本史の勉強をするシーンがありましたが、日本史は得意でしたか?
「ニガテです!(笑)。本当にニガテ」
——セリフに用語とか人名とか、けっこう入っていましたが…。
「完全に忘れていることがいっぱいありました。社会より理科のほうが好きだったんです」
——あ、そうなんですか! 理数系が得意だったんですか?
「理数系っていうか、あの…実験系です(笑)。楽しかったですね」
——ほかにも印象的なシーンがたくさんあって、デートも印象的でした。それまで高級なレストランに行っていた理央が、光輝とのデートではまずラーメン屋に行ったじゃないですか。佐々木さんだったらどっちのデートが好きですか?
「私、断然ラーメンですね!」
——そうなんですか(笑)。
「月に1回は食べるんです。大のラーメン好きで。よく『モデルだからいいもの食べてるんでしょ』って言われるんですけど、ラーメンとかファーストフードとか、そういうものが大好きなんです。だから、よく『大丈夫なの?』って言われます(笑)」
——体型維持はどうやっているんですか?
「油っぽいものを食べた次の日はサラダを多めに食べるとか、そういう気は遣います。でも、食べたいときに食べたいものを食べますね」
——それはモデルになる前からずっと変わらないんですか?
「モデルになる前はそんなことも考えず、なんでも食べてました」
——そうですよね… (笑)。あと、デートと言えば、首塚に行くデートがまた印象的で。
「そうですね」
——ああいうデートはどうですか?もし誘われたら…。
「(笑)。どうでしょうか…」
——すごく好きな人に誘われたら…。
「それはもう、行きますね!」
——興味のない場所でも楽しめちゃうほうですか?
「はい。楽しみを見つけます」

友達と重ねて演じていたら考える前に泣いちゃいました

——傘とか雨とかが印象的な映画だなと思ったんですけど。
「そうですね。雨はキーワードになっていて、最初に出会ったときと、最後に別れるときも雨でした。雨で始まり雨で終わるみたいな。傘もキーワードになっていて、最後、本当は傘を持っているのに持っていないふりをして入れてもらって。最初と同じシチュエーションにしていたり。なんか…胸が痛いですね、ああいうの」
——映画館の中で傘をさすシーンもあって。初めて見たシーンだなと思いました。
「私もあれはすごいなって思いました」
——雨は好きですか?
「好きではないです! 私、晴れ女なんですよ」
——あ、今日も雨って言われてたのに晴れましたよね!
「それ、もう何千回も言われてます。しかも、雨が降りそうなときに外で撮影してて中に入った瞬間に雨が降るとか、外に出る直前に晴れたりとか、よくあります」
——ありがたいですね(笑)。佐々木さんが一番好きなシーンはなんですか?
「けっこう重いシーンがたくさんあるので、どれも捨てがたいですけど…。好きなシーンというか印象に残っているシーンは、やはり目の前で親友の奈緒子を失うところ。すごく重かったですね、あれは。考えて役作りをしようと思っていたんですけど、あの場所で演技をしていたらすごく悲しくなって、考える前に自然と泣けてきちゃって。私の親友の名前もナオコっていうんです。だから私の友達のほうのナオコが「私のシーンやった?」「まだやってない」とか言って。自分の友達と重ねたりもしつつやってました…」
——なるほど。では、印象に残っているセリフはありますか?
「セリフ! …いっぱいありすぎる! 長いセリフのシーンで…『長い長いメールで想いを伝えるよ。表情で、ネイルの色で、お気に入りのワンピースで、念入りに巻いたヘア

スタイルで、あの手この手で…あなたへの愛を表現するよ！』ですかね。全力で愛を表現するところが素晴らしいです」

——私も「愛は表現されるのを待っている」っていう言葉がすごく印象的で、思わずメモしました。

「理央のセリフにもありますし、光輝も『愛は表現されるのを待ってるんだろ』って大事なシーンで言うんですよね」

この作品をきっかけに みんなと仲良くなれました

——この作品を通して、共演の谷原さんとの仲はより深まりましたか？

「谷原さんとはたくさんお話しました」

——年はけっこう離れてますよね？

「はい。ただ、谷原さんがお若いから。お茶目な方で、冗談言ったり変顔したりよくされていたので、20歳も年上には全然見えないですよ」

——お子さんもいらっしゃるんですよね。

「そうそう、子どもとね、海に行くんだとかそういう話もして。『いいですねえ～、私休みないんですよ…』とか、そういう話も(笑)」

——ほかの共演の方は、同年代の方が多かったですよね。撮影の前からお知り合いだったんですか？

「知ってる方ばかりでしたね。加賀美(早紀)さんとは初めてお会いしたんですけど、山本ひかるさんは同じCMをやってたので知っていたし、(大石)参月さんと七菜香さんとはお仕事で何度か会っていました」

——それはやりやすいんですか？やりにくいんですか？

「ちょっと、最初は恥ずかしかったです。でも、みんな初めてみたいなものだったから、そこはもう恥ずかしいとかじゃなくて、みんなでがんばろ！という感じになりました」

——絆が強まりました？

「強まりましたね。仲が深まったと言うか。この作品をきっかけにみんなとすごく仲良くなれました」

女優・佐々木希の今後は …わからないです

——この作品で「佐々木希は演技がうまい」というのがわかってしまいました。

「うまいって(笑)。自分ではうまいなんて全然思ってないです！」

——(笑)。で、どんどんそういうオファーが来ちゃうと思うんですけど、これからも演技をやっていこうっていう気持ちはあるんですか？

「まだわかんないです」

——本業はあくまでモデル？

「そうですね。でも…わからないです。そのときになってみないと」

——これなら演じたいなっていう役はありますか？

「それもまだ…全然わからなすぎて。なにかお話があればって感じです」

——この作品を誰に観てほしいですか？

「親ですね。撮影中、親がすごく心配してくれていたので。最初に観てほしいですね」

——では、これからの目標は？

「演技とは全然違うんですけど、自分のブランドを持ちたいです」

——服とかアクセサリーとか？

「はい。ものづくりがしたいです」

——ご自分でデザインもされるんですか？

「したいですね！　やりたいことができるようにいろいろ仕事もがんばっていきたいと思います」

——今後の活動が楽しみですね！

「はい。ありがとうございます」

天使の恋　11/7(土)公開

過去のある出来事がきっかけで、クラスメートとともに援助交際をしてお金を稼ぎ、ブランド品を見にまとい、自分の思うがままに生きるようになった女子高生、理央(佐々木希)。ある日、どこか陰のある大学講師・光輝(谷原章介)と出会い、彼の寂しげな表情に惹かれ始めるが、彼はある秘密を抱えていた。

[STAFF & CAST]

監脚寒竹ゆり　原sin著「天使の恋」上・下巻(ゴマブックス刊)　音梅村安　出佐々木希　谷原章介　山本ひかる　大石参月　七菜香　加賀美早紀　深水元基　酒井若菜　('09／ギャガ)

佐々木 希

1988年2月8日生まれ、秋田県出身。

「週刊ヤングジャンプ」(集英社)による「ギャルコン2005」でグランプリを受賞。06年には「PINKY」(集英社)の「プリンセスPINKY」でもグランプリに輝き、専属モデルとしてデビュー。女優としてのおもな出演作に、映画「ハンサム★スーツ」('08)ドラマ「神の雫」('09)がある。本作が映画初主演作。

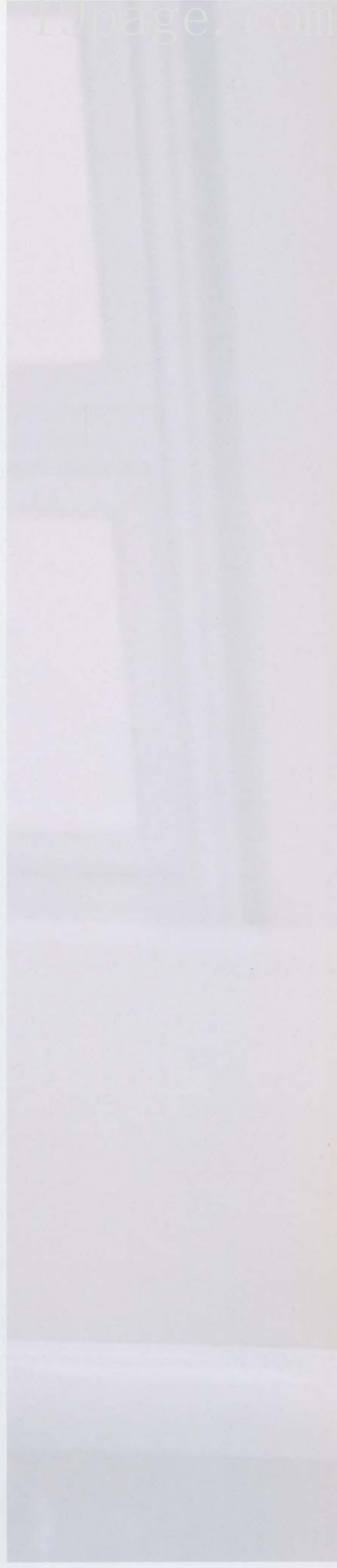
佐々木希モバイルサイトはこちら

HP s-nozomi.jp/q?m=publicity

















Message

Dear Nozomi

「初めての主演」に日々奮闘した佐々木 希を、一番近くで見守った仲間たち。
写真集発売を記念して、彼らからメッセージをいただきました。



監督・脚本　寒竹ゆり
1982年生まれ。
岩井俊二監督に師事し、映画「虹の女神」('06)やPV・CMで助手を務める。同時にラジオドラマの脚本・演出や上野樹里のファーストDVD「ao akua」の監督を経て、本作で長編デビュー。

「ナオコ、ワタシはあなたとトモダ‥あっ‥スミマセン‥」
５月初旬。目の前のおそろしく台詞を噛む、蚊の鳴くような声の、秋田訛りが残る主演女優を前に、わたしはポーカーフェイスを装いながら、まだ夏でもないというのに背中に冷ややかな汗を感じていました。みんなの期待を背負い、本読み初日にしてこの先どうしたものかと途方に暮れてしまったのです。

あれから3か月。モニターの中の彼女の姿を覗き見ながら、わたしは不覚にも感涙させられていました。それは彼女がこの3か月間並々ならぬ努力をしたからでも、泣けるシーンだったからでもなく、ただほかの誰にもない希有な魅力と表現力を持った新しい女優が誕生した瞬間をこの目で目撃してしまったからにほかなりませんでした。

あなたのことだから「この先女優をやるかはまだワカンナイです」とか言ってるんだろうと思いますが、希、あなたはもう立派な女優です。自分を含め、たぶん周りが放っときませんよ。



小澤光輝役　谷原章介
1972年7月8日生まれ、神奈川県出身。
雑誌「メンズノンノ」専属モデル出身。シリアスからコメディまで幅広い役柄をこなし、映画やドラマ、CM、情報番組司会者にと引っ張りだこの俳優。08年、映画「ハンサム★スーツ」に主演し、注目を集めた。12月には「のだめカンタービレ最終楽章 前編」も公開。

希ちゃん
初主演お疲れ様でした。
日々役と向き合い、演技について悩みながら現場にいた希ちゃん、
体力的にとても消耗したと思います。
一日一日やつれていく様は、傍で見ていて心配でした。
演技のリハーサルを入れれば、ほぼ3か月間、本当に良く頑張ったと思います。
その姿に、たくさんの勇気と感動をもらいました。
この3か月間は、希ちゃんにとってとても大きな財産になると思います。
その日々を糧に、これからもモデル、グラビアアイドル、女優として
幅広く活躍していって下さい。



鮎川友子役　山本ひかる
1991年2月28日生まれ、大阪府出身。
第1回「アミューズお姫様オーディション」('05)で準グランプリを受賞。「わたしたちの教科書」('07)でドラマデビュー。映画「激情版エリートヤンキー三郎」、ドラマ「仮面ライダーW」(ともに'09)でヒロインを演じるなど、出演作多数。

友子の役がオーディションで決まったとき、正直不安でした。いじめられる役というのは初めてだったし、何か大きなものを抱えている子を演じるのは難しいです。でも自分のしたことのないことや、自分と掛け離れた役を演じることはとても楽しくやり甲斐があります。不幸から幸せに変わる瞬間、そして現れた幸せをまた奪われる気持ち。それを表現するにあたって、自分の中でたくさん考えたし悩みました。私は誰かを演じるときその子がどこで生まれ、どういう環境で育ったか考えるけど、友子のことを考えているときあまりにもかわいそうで涙が出ました。でも理央の素直な心に助けられ、友子に愛情を持って演じることができました。現場でも希さんはお姉さんみたいで、たくさん可愛がってもらいました！　実は前から希さんの大ファンだったので劇中で出てくるプリクラを一緒に撮ったりしたのもとても嬉しかったです！　待ち時間やちょっとした撮影の合間でもたくさんお話しして、可愛さに癒されたりもしました(笑)。理央と友子の関係としてもとても良い雰囲気を出すことができたと思います。また共演したいです！　本当にありがとうございました。



田沼真樹役　大石参月
1988年3月22日生まれ、静岡県出身。
04年雑誌「セブンティーン」専属モデルとして活動を開始。その後、モデル以外にもPV、CM、TVドラマなどで活躍。09年3月に「セブンティーン」を卒業し、4月からは雑誌「vivi」の専属モデルとして活躍中。

はじめましてから一緒にレッスンして撮影して一緒の仕事がはじまって。
今日までなんかすごく長く一緒にいる気がします。
私にとっての初めての映画撮影はとにかく大変っ！て思っていたけど
希はもっと過酷スケジュールのなか頑張ってて。
いつも睡眠不足でちょっと時間があるとどこでも寝ちゃうのに
いざ本番となるとすごい集中力で演技してるし、セリフも漏れないし、
さすが佐々木希！って実は尊敬してました。
こんなに仲良くなれて本当に嬉しかったし、楽しかったよ！
これからも仲良くしようね！　大好き！



松方末歩役　七菜香
1991年1月18日生まれ、滋賀県出身。
雑誌「セブンティーン」オーディション「ミス セブンティーン2004」受賞後、専属モデルとして活動開始。06年「やっくんの妹を探せ！」オーディションでグランプリを獲得。09年3月「セブンティーン」卒業。モデル活動も続けながら映画「ドロップ」（'09）に出演するなど、女優活動も開始。

のんちゃんへ
いつも仕事に対して真面目なのんちゃんですが、
今回は主演映画ということもあって、いつも以上に気合いを感じました。
台本はボロボロになるまで読み込んでいたし、
作品に対して真剣に向き合っている姿は、近くで見ていてとても刺激を受けました。
現場ではガールズトークで盛り上がったね。とても楽しかったです。
盛り上がりすぎて、監督に怒られちゃったこともあったけど…。
私にとってのんちゃんは、仕事や恋愛の相談もできて、
私のことをわかってくれるお姉ちゃんみたいな存在です。
これからも、女の子にも男の子にも好かれる、
可愛くて綺麗なのんちゃんでいてください。
また一緒にお仕事できると嬉しいです。プレイベートでも仲良くしてねっ！



芝田奈緒子役　加賀美早紀
1985年2月26日生まれ、千葉県出身。
01年、映画「プラトニック・セックス」のオーディションで1万2千人以上の応募者の中から選ばれ、主演デビュー。同作で第25回日本アカデミー賞・新人俳優賞受賞。おもな映画出演作に「キラービー」（'05）「檻」（'06）があり、TVドラマにも多数出演。

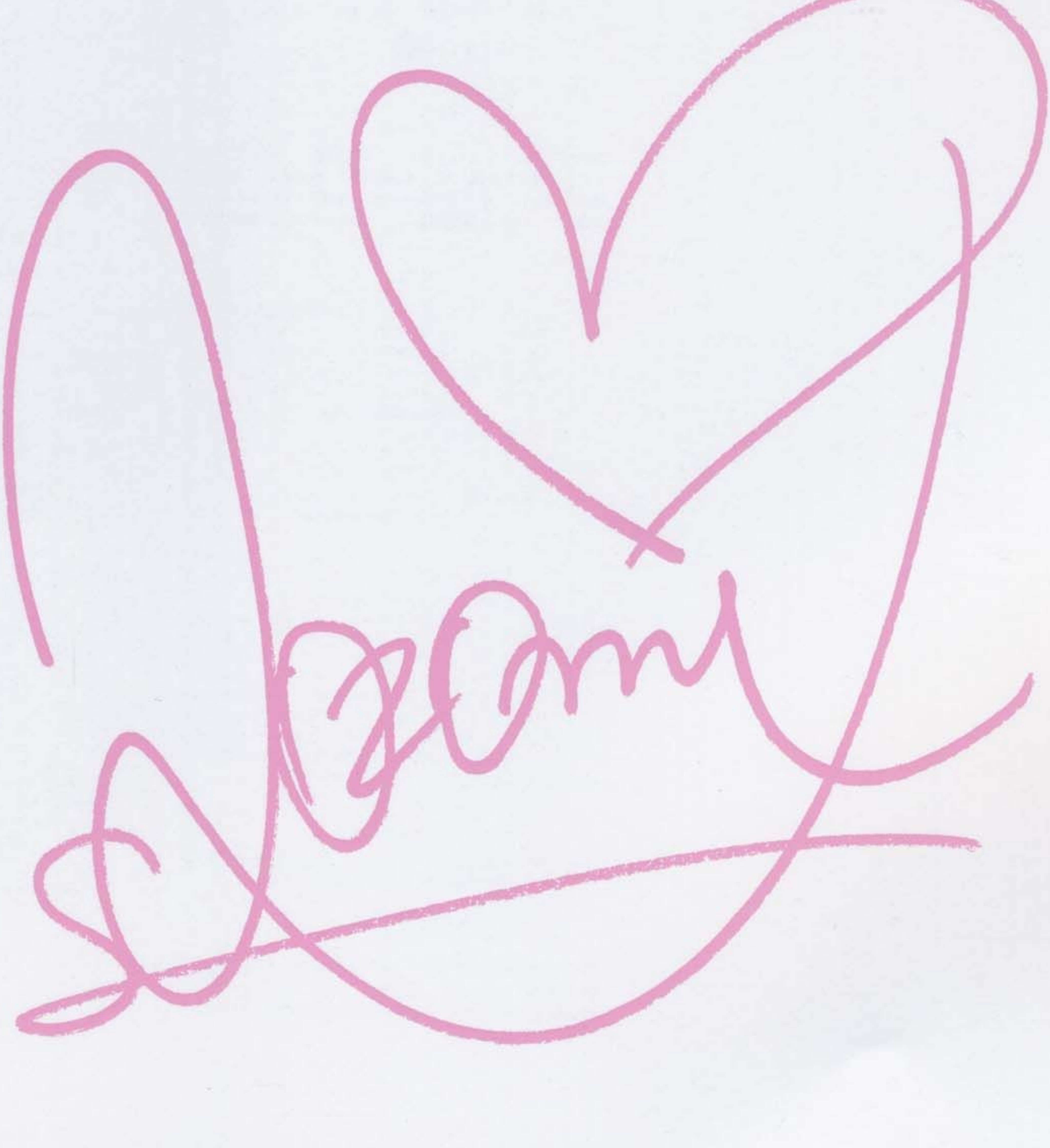
早朝から深夜まで毎日大変ななか頑張っていらっしゃるのをみて、
私も感化されました。
監督のおっしゃる言葉をすぐ演じられる器用なところが素晴らしいと思いました。
とにかく、「かわいい顔だなぁ」とみとれてました（笑）！！
ＫＩＳＳシーン・・・ドキドキしましたヨ。
ありがとうございました。





このお話をいただいたとき、やりたくなかった。
というか本当に自信がなかった。
演技経験も少ないし、やり方がわからなかった。
でも寒竹監督に会って、そんな自分の思いを変えられた。
この作品に携わった3か月は切羽詰まって、余裕がなくて
ほんとに辛かったけど、それ以上に今まで味わったことのない
充実感・達成感が残りました。
あと、楽しさも…。
この作品に携わってくださったスタッフの方々、関係者の皆様、
映画を見てくださった皆さん、さらにはこの本を買ってくださった皆さん
本当にありがとうございました。
この作品に関われて本当によかった☆

佐々木 希



佐々木 希

谷原 章介

山本ひかる

大石 参月

七菜香

深水 元基

加賀美早紀

団 時朗

近江谷太朗

並樹 史朗

井村 空美

春日 潤也

秋田 哲也

大和田美帆

Mark Chinnery　友光小太郎

篠原 楓　清水 遥加

中野まりこ　高橋 未希

福岡 陽子　ミキクラーク

永沼友由輝	田中 裕士	鈴木あきえ	岩永ひひ男	提坂 笑加
木村あかり	雪谷 和美	雨宮 奈生	天川ヒカル	大迫 一平
西浦 友珠	浜崎 千羽	高田 ゆか	井上 寛子	小春ちゃちゃ
辻田直緒子	水瀬 彩	水口 まり	和田めぐみ	手塚三紗子
エレナ	安藤 友紀	古寺ひとみ	河合 風歌	佐野寿美歌
亜梨香	岩田 彩奈	ももかんな	倉岡 生夏	成田 梨紗
怜 央	仁藤 愛	風間 みゆ	小島 聰	三木 結美
白井すみれ	末田 佳子	久高 綾香	あんどうあゆみ	沙お里
砂塚 貴彦	打上 寿美	真壁 均	桂野 忠一	加藤 力弥

東京エキストラノートのみなさん　本庄フィルムコミッション
トップコート Artist★Artist　BAY SIDE
横浜フィルムコミッション　川崎市シティーセールス

吹越 満

笑福亭鶴光

津田 寛治

酒井 若菜

岩村麻由美（特別出演）

企画・プロデュース　梅村 安

製作　千城 隆司
宇野 康秀
河野 広一
渡辺万由美
依田 巽
瀧藤 響乱

エグゼクティブプロデューサー　梅澤 道彦

プロデューサー　遠藤 英明
吉村 知己
富田 敏家
中山 賢一

Co.プロデューサー　大野 貴裕
新妻 貴弘
吉岡 昭

アシスタントプロデューサー　平塚 朋広

撮影　角田 真一

撮影（Bカメラ）　神戸 千木

照明　内野 泰宏

録音　久連石由文

美術　福田 宣

装飾　渡辺 岳慶

編集　小野寺絵美

音楽　indigo blue
渡辺善太郎

音響効果　中村 巽

VFXスーパーバイザー　大萩 真司

カラリスト　長谷川将広

ヘアメイク　小出 みさ

スタイリスト　新崎みのり

ネイルデザイン　田代 法子

助監督　桑島 憲司
水波 圭太

制作担当　高橋 潤

キャスティング担当　内田 森

ラインプロデューサー　橋本 淳司

ポストプロダクションプロデューサー　篠田 学

監督助手　川松 尚良　逢坂 元
撮影助手　二階堂悠紀　田島 茂
松本 貴之　榊原 孝
照明助手　岡田 佳樹　小林 卓実
宮永アグル　小山 宏之
三浦 大輔
機材オペレーター　平谷 秀幸
電源車オペレーター　小池 真樹
録音助手　原川 慎平　赤澤 靖大
輿語 哲士　金地 宏晃
美術助手　山本 志恵
持道具　中島明日香
大道具　あらきごろう　きたむらたけし
造型　原田 千春
進行　高野 克吉　近藤 剛史　花見 隆広
ネイリスト　上原 渚　原 ちほり　村上 舞
ヘアメイク助手　木内美奈子
スタイリスト助手　永池 彩季
スタイリスト（岩村麻由美）　岡 のぞみ
ヘアメイク（岩村麻由美）　石川 亜矢
スタイリスト助手（岩村麻由美）　鈴木可南子
編集助手　平井 健一
スチール　小林雄一郎
メイキング　氏家とわ子
特機　上竹 寛一
柳川 敏克　小窪 美佳　鈴木 陽祐
田岸 武将　越善 史奈　佐藤 雄大
小野川菜々　田畑 朱里　月村 恒宝
スタント　高橋 昌志　江 賢
（スタントチーム・シールズ）
車輌　岩崎 太一　桐生 孝行　中村 秀輝
高橋 浩　谷越 弘治　宮路 雅人
山城 宣之

演技事務 北田希利子
演技事務助手 北村 美香
エキストラ担当 今井 康裕
エキストラ担当助手 森田 哲夫
制作主任 塚村 悦郎　田中 智明
制作進行 大塚 博之　伊勢 隼一
監督助手見習 井野 大地
撮影応援 砂原 洋一
照明応援 山本 学　鳥羽 宏文　津覇 実人
本間 大海　田部 誠　井ロフランクイワオ
録音応援 加藤 康太　三好 紗恵
美術応援 高橋 裕子　福島 知子　野村 有里
鈴木 智尋　菊池 洋智　田沼 愛子
松永 佳子　月舘 和哉
メイク応援 松下 泉　太田由美子　石邑 麻由
制作応援 細谷 光　桑原 学　近藤康太郎
竹俣 瑠美　新井友紀子　大野 洋平
相田 圭介　東京海洋大学ラグビー部
フォーリーアーティスト 井上奈津子　松浦 大樹
照明機材担当 野本 明宏
ダンス振付 佐野 周
絵コンテ 馬場 美樹
医療監修 高橋 弘（日本医科大学教授）
森本大二郎（日本医科大学助教授）
劇中イラスト 欧坂 ハル
劇中小道具デザイン Kyoko
取材協力 久保田昌希（駒澤大学文学部）
制作経理 渡辺 敏子
技術アシスタント 河野 陽子
コンポジットスーパーバイザー 道 威志
デジタルコンポジター 美佐田幸治　清原 穂高　松岡 恵
畠山 智平
ローリングタイトル 今井 慕子
タイミング 山崎 伸一
テクニカルコーディネーター 柴田 誠
カラーマネジメント 由良 俊樹
松本 渉
フィルムレコーディング 小越 将
ラボコーディネーター 厨川 佳苗
整音助手 藤林 繁
光学録音 利澤 彰
デジタル光学録音 西尾 昇

DOLBY DIGITAL 一部上映館を除く
河東 努
森 幹生

宣伝統括 星野 有香　松下 剛
宣伝プロデューサー 新田 佳子
宣伝 渡辺 智子　大橋 健一　濠戸 睦
下田 良子　安倍 理紗
宣伝パブリシティ ジョリー・ロジャー　DROP.　バロン　フラッグ
予告編 里 謙二郎
デザイナー 三堀 大介　松田 政門
WEB GMOメディア
営業統括 水野 貴夫
劇場営業 一色 真人　辻 勝行　牧野 伸生
大崎寿美子　渡辺 大輔
劇場宣伝 田中 義章　小野 裕子　藤谷恵里子
河村 美幸　下高原啓人
海外セールス 山口未知子　石川啓次郎　渡辺 晴子

原作 sin 著「天使の恋」上・下巻

主題歌

伊藤 由奈
「Let it Go」
words 中島ユキノ
music&arrangement 多保孝一
strings arrangement 倉一樹
STUDIOSEVEN Recordings / Sony Music Records Inc.

挿入歌

LOVE PSYCHEDELICO

「Beautiful days」
words&music LOVE PSYCHEDELICO
Victor Entertainment, Inc.

「Here I am」
words&music LOVE PSYCHEDELICO
Victor Entertainment, Inc.

「Waltz」
words&music LOVE PSYCHEDELICO
Victor Entertainment, Inc.
℗&© 2002 Victor Entertainment, Inc.
album「LOVE PSYCHEDELIC ORCHESTRA」より

オープニングテーマ

indigo blue
「I' m The One」
words&music Rina/indigo blue
Arrangement indigo blue
Imperial Records

BGM

田尾知之(note native) / 本澤直之
「Black Storm」「Hand Bag Lovers」「A-N-G-E-L」「Shining」
music&arrangement 田尾知之(note native) / 本澤直之
RAINBOW ENTERTAINMENT

オリジナルサウンドトラック

「天使の恋 Original Soundtrack」
5.1ch Music Mixed by 岡部 潔
5.1ch Mixed at SOUND INN STUDIOS INC.

音楽協力

テレビ朝日ミュージック
SOUTH POINT inc.
Rainbow ENTERTAINMENT

音楽制作協力

野口 智　森永 直樹　満田 和哉　土肥 準　渡辺 雅之

協力（Special thanks）

宮地 直樹　Kyoko　Taku Takahashi (m-flo)
伊達 仁人　柴崎 憲治　掛須 秀一　佐々木修司
板倉 正幸　松尾 大輔　猪股 克介　内山 人利
日高 淑徳　川俣 絵梨　佐藤梓由里　猪鼻 憲一

特別協力

TIE YOUR TIE　RESTIR　六本木ヒルズ　ホテル日航東京
kitson　SEIKO　MARC JACOBS
MARC BY MARC JACOBS　Happinet
Brillia Mare 有明 管理組合　Brillia Mare 有明

撮影協力

西華産業株式会社　小糠日文　プログレッシブ
オフィスハラ　日本シネ・サービス　MTO
STAN-S　MIXX JUICE　三交社
(株)ラフバレー　Impact　Anplace
グリフィス　龍保険事務所　フォーピース
ゼネラル通商株式会社

技術協力

アオイスタジオ　アルカブース　IMAGICA
NTT MEDIA LAB　ジェイ・フィルム

ロケーション協力

本庄総合病院　桜丘中学・高等学校
チックエンタテイメント　本庄商工会議所　わたらせ渓谷鐵道
エイチアイ インターナショナル株式会社　わたらせフィルムコミッション
ディモデザイナー　TOKYO DAIHANTEN　昼'S　うまいもの市場TAPA
コンセント　ジュエルチェンジズ　ユナイテッドアローズ
日野市中央図書館　日野フィルムコミッション　小山町フィルムコミッション
MONCEAU FLEURS　新宿ピンク・ビッグ・ビック　朝日地所　西武鉄道
読書空間みかも　ホテル若泉　千本松牧場　東京海洋大学
横浜市立大学　中華麺舗 虎　長井漁港　一軒屋カフェ pachanga
尚美学園大学　福生中央図書館　ベロア

書籍協力

株式会社東京堂出版　株式会社シンエー　株式会社桐原書店
株式会社三省堂書店　ゴマブックス株式会社

衣裳協力

CONOMi　学生服コード服装　AGOSTO "SHOP"　SLY
Deborah tune　BLACK　Rodeo Crowns　rienda　moussy
SHELTTER　ナカイレーベン株式会社　LEONARD FASHION　glamb

メイク協力

ANNA SUI COSMETICS　KOSÉ　M·A·C

美術協力

株式会社 ○京装飾　Q&A　仕掛屋

装飾協力

ACME　BOSE　BISLEY COMBO　C-PLUS HEAD WEARS
Mate.　DELUXE　SCOPE　TOSHIBA
株式会社 グレイスエンブ　エスシー・コーポレーション
タチカワブラインド　brother　HAIGHT & ASHBURY
ワークス工業　高津装飾美術株式会社

持道具協力

ORB　メガネドラッグ　HERZ
e shopping　J Well　NEC
MUDITA　mabu.　au　vario
花王堂ネット店　MOBILEMOBILE　ブランドScoop!　KikuMasa Corp.
Cranberry Vintage Antique　charmant　Alta Chiesa　FOREVERMARK　glass-1

制作プロダクション

SEDIC Deux.inc

制作協力

USF
Pipeline

配給

GAGA★

「天使の恋」製作委員会

テレビ朝日 福吉 健　上田めぐみ
松久 智治　二階堂義明
セディック ドゥ 松橋 美奈　菅野 美緒
ユーズフィルム 渡辺 英俊
CIRCUS 佐藤 裕　園田 浩一
東海林由佳　小島 拓也
トップコート 川嶋 静子
ギャガ 丸茂 日穂　小竹 里美
山崎 雅史　高橋 尚子
ジャパン・ミュージックエンターテインメント 阿部 亨　清水 航太
木村 正和

監督・脚本 寒竹 ゆり

Nozomi Sasaki in Tenshi no Koi

佐々木希 in「天使の恋」

Nozomi Sasaki in Tenshi no Koi

Nozomi
Sasaki in
Tenshi no
Koi

角川メディアハウス

Rio Ozawa

佐々木 希 in「天使の恋」

2009年11月7日　初版発行

撮影／小林雄一郎（P.4〜87）、pedro cho（P.89〜104）
アートディレクション／大橋 修（thumbM）
デザイン／石井勇一、甲斐 雅（thumbM）
スタイリスト／新崎みのり（P.89〜104）
ヘアメイク／足立真利子（P.89〜104）
編集＆取材・文／髙崎 薫、佐藤英樹
プリンティングディレクター／井上 優（凸版印刷）
制作協力／トップコート　セディック ドゥ　ギャガ
編集人／五十嵐淳之
発行者／木場正博
発行／株式会社　角川メディアハウス
〒102-0072　東京都千代田区飯田橋1-12-7　飯田橋センタービル8F
編集：03-3238-6467
発売／株式会社　角川グループパブリッシング
〒102-8177　東京都千代田区富士見2-13-3
営業：03-3238-8521
印刷・製本／凸版印刷株式会社

Printed in Japan
ISBN978-4-04-894924-8　C0076

ISBN978-4-04-894924-8
C0076 ¥1800E

978404

192007

定価：本体1800円（税別）

発行：（株）角川メディアハウス
発売：（株）角川グループパブリッシング